

こんにちは♪

民主苫小牧号外
2026年
11.1
No.1163

日本共産党市議会議員

小野寺ゆきえです!

３度目のIR誘致見送り

今月24日付の北海道新聞（道新）は、『道、ＩＲ申請来年は見送り』と大きく報じました。「良かった」と「やっぱり」というのが私の感想です。ＩＲ誘致は絶対に嫌なので「良かった」「誘致なんて無理に違いない」とも思っていたので「やっぱり」です。9月議会に私は、「知事は誘致する気がないのでないか。誘致したがっているのは市長だけだ」という趣旨の指摘をしていたのでした。

知事がＩＲの見送り表明したのは今回で3回です。1回目は2019年の10月28日、2回目は2020年1月14日、そして今回。19年の時は、市民が自然環境を心配していた植苗地域（誘致候補地）の環境調査費1800万円を市長が強行して計上した直後。20年の時は、市長が知事を訪問し「知事の英断を期待している」と“ラブコール”をした直後でした。ことごとく期待を裏切られた形です。

今回は、知事が誘致に手を挙げることを再び期待し、市長はシンガポールのＩＲを視察する予算を計上し、出かける直前でした。シンガポールのＩＲは、成功事例として日本が目指す姿だそうです。市長は一目見たかったのでしょう。視察予定は11月上旬。私は、「知事が見送ったのにシンガポールに行ったら“税金の無駄使い”と市民から指摘されますよ」と忠告したところです。

道新は、知事の申請見送りの理由を、来年5月から11月までの申請期限に間に合わないからだと報じています。一方市は、「何で最初から急がなかったのか」と道に対し不満を漏らしたとも報じています。道と市との温度差を感じますね。ある道議会議員のコメントによると、知事はＩＲ誘致に前向きではなかったようです。「やっぱり」です。

しかも4月は知事選挙。道民の6割が反対しているＩＲを誘致すると表明すれば、知事選挙にも影響します。いくら知事を支持する経済界や自民党がＩＲ推進派でも、6割の道民を敵に回すわけにはいかないでしょう。

道新では、苫小牧商工会議所の関係者のコメントも紹介していました。「日本ハムの2軍誘致が叶わなかった以上、ＩＲに期待していた」とのことです。夢と希望ある日ハム2軍誘致と、夢も希望も壊す“カジノ付きＩＲ”を同列するなんてどうかしています。

次に政府が申請を受け付けるのは2030年頃だそうです。先日もある女性から「金澤市長は何なの！　まだＩＲだかを誘致するって言ってんでしょう!!　呆れるね～!!!」と言われました。このような声は少なくありません。唯一ＩＲ誘致反対を掲げる共産党市議団の出番です!!

発行：日本共産党苫小牧地区委員会　苫小牧市見山町2-2-6　（文・責：小野寺幸恵）